



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2712号 2015.11.11 発行

「格好いい福祉」体験

読売新聞 2015年11月11日

この日は最新鋭の電動車いすの試乗会も開かれた（10日午後、JR渋谷駅前で）

「かわいそう」「大変そう」といった福祉機器が持つイメージを転換させるイベント「2020年、渋谷。超福祉の日常を体験しよう展」が10日、渋谷ヒカリエ8階で始まった。小型の折りたたみ電動車いすや、3Dプリンターを活用した義足カバーなど、デザイン性にも優れた約30点が展示されている。主催者は「福祉に対する先入観を覆したい」と話している。

障害者が暮らしやすい社会を目指すNPO法人「ピープルデザイン研究所」（渋谷区）の主催で、昨年に続き2回目。立命館大学の研究室が開発した「車椅子DJ」と名付けられた車いすは、車いすの速度に応じて、曲の再生スピードを変化させることができる。車いすに乗ったまま踊る車いすダンサーの存在が発想の元になったという。海外で年間2万台売れた車いす「Luggie（ラギー）」は、ハンドルで簡単に動かせ、折りたためばキャリーバッグのように運べる。都内の老人ホームで働く嶺智恵さん（22）は「かわいくて自分でも使ってみたくらい」と話した。

会場には、周囲の雑音を除去する会話支援機器や動力を使わずに歩行をサポートする製品、障害者が使うスポーツ用品なども並ぶ。

同法人の須藤シンジ代表理事（52）は、「従来の福祉機器はできるだけ目立たないように作られていた。格好いいデザインにすることで、障害者や高齢者が街に出て行きやすくなるはず」と話した。16日まで。無料。



三重）精神障害者自立へ 津新町駅前にサンドイッチ店 朝日新聞 2015年11月11日

精神障害者支援の「サンドウィッチ&カフェ ピア」=津市南丸之内

スタッフの榊原俊介さん=津市南丸之内の「サンドウィッチ&カフェ ピア」

精神障害者が社会参加をめざして働くサンドイッチ店「サンドウィッチ&カフェピア」が10日、津市の津新町駅近くにオープンした。精神障害のある20～40代のスタッフ3人が中心となって、サンドイッチを製造・販売する。NPO法人「ピアサポートみえ」（津市）が「障害のある人にも働く喜びを知って欲しい」と開設した。

サンドイッチはチキンカツや小倉ホイップなどの6種類で、2切れ入りで300円（税込み）。自分たち



でジャガイモをゆでて具材のポテトサラダを作るなど、手作りにこだわる。喫茶コーナーでは、注文を受けてから豆をひき、フレンチプレスで入れたコーヒー（税込み400円）なども提供する。

スタッフの一人、榊原俊介さん（32）は、うつ病とパニック障害になり、約10年間引きこもっていた経験がある。サンドイッチの製造や店頭での接客を担当する。「働くのは初めてだが、やっていけそう。今後は、サンドイッチ以外のメニューを増やしたり、夜間にお酒を提供したりできれば」と意気込んでいる。

徘徊事故の責任どこまで JR東海、遺族に賠償請求 来年2月に最高裁弁論

東京新聞 2015年11月11日

愛知県大府市で二〇〇七年、認知症の男性＝当時（91）＝が徘徊（はいかい）中に電車にはねられ死亡した事故をめぐり、JR東海が家族に損害賠償を求めた訴訟で、最高裁第三小法廷（岡部喜代子裁判長）は当事者双方の意見を聞く弁論を来年二月二日に開くと決めた。認知症患者が起こした事故での家族の監督責任について、最高裁として初の判断を示す。判決は年度内に言い渡される見通し。

事故は〇七年十二月に大府市のJR共和駅構内で起きた。男性は認知症で同年に「要介護4」の認定を受け、同居の妻と、近所に住む長男の家族が在宅で男性を介護していた。

遺族側は「一瞬のすきなく付き添い、外出を防ぐことは不可能だ」と主張。一審名古屋地裁は「徘徊を防ぐ対策を怠った」と判断し、妻と長男の監督責任を認めて、JR東海の請求通り約七百二十万円の支払いを二人に命じた。

二審の名古屋高裁は「二十年以上別居しており監督者とはいえない」と長男の監督責任を否定し、妻にのみ約三百六十万円の支払いを命じた。民法は、責任能力がない知的障害者や子どもらが他人に損害を与えた場合、監督を怠った家族などが原則、賠償責任を負うと規定している。

装着型医療ロボ販売へ ALS患者ら向け

共同通信 2015年11月10日

厚生労働省の専門部会は10日、全身の筋肉が徐々に動かなくなる筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの患者の歩行機能を改善する医療機器として、筑波大発のベンチャー企業サイバーダイン（茨城県つくば市）が開発したロボットスーツ「HAL医療用」の国内販売を了承した。

11月中に正式承認される見通し。体に装着し、意思を反映して動きを補助するロボットの承認は初めてとなる。今後、保険適用も検討する。

サイバーダイン社長の山海嘉之・筑波大教授は「ロボットが（患者の）支援だけでなく治療で効果を上げた。新しい医療分野を作る大きな一歩だ」と話している。

HALは下半身に装着する装置で、太ももなどの皮膚に取り付けた電極で神経の微弱な信号を読み取り、モーターを動かして患者の関節の動きを助ける。ALSのほか、筋ジストロフィーや脊髄性筋萎縮症など8疾患が対象。

国立病院機構新潟病院などで実施された臨床試験（治験）では、24人の患者で13週間以内に9回、HALを使って歩行運動をすると、外したときの2分間の歩行距離が平均で約17%延びた。HALを使わなかった場合は約7%で、10ポイントの改善効果があった。さらに長期的な改善効果は今後検証する。

サイバーダインによると、ドイツでは既に約70台が使われている。国内では、高齢者や障害者らの支援を目的としたHAL福祉用が約400台使われている。〔共同〕

パラリンピック、競技団体の共同オフィスが開所

読売新聞 2015年11月10日

共同オフィスで日本パラ陸上競技連盟の幹部と話す高桑早生選手（左）（10日、東京都港区で）



2020年の東京パラリンピックに向け、障害者競技団体の共同オフィスが10日、東京都港区の日本財団ビル内にオープンした。

陸上や水泳など計25団体が入居し、選手の育成プログラムの企画などに当たる。

同財団によると、障害者の競技団体はボランティアで運営されているケースが多く、幹部の自宅が事務所だったり、コーチが経理を兼務したりしているところもある。共同オフィスは、こうした団体を支援して競技の底上げにつなげるのが狙い。同財団が約1300平方メートルの

スペースを無償提供し、経理業務のサポートスタッフも常駐させた。

開所式では、日本パラ・パワーリフティング連盟の吉田進理事長が「これまでは自宅が事務所で会議もできなかった。本当にありがたい」とあいさつ。ロンドン大会に出場した陸上の高桑早生選手は「他の競技団体と情報交換もできる」と喜んだ。

知的障害者サッカー 県代表 期待の初陣 22日 横浜で 信濃毎日新聞 2015年11月



11日横浜F・マリノスの知的障害者チームとの対戦に向け練習する県代表メンバー＝8日、御代田町

サッカーJ1の今季最終節が行われる22日、日産スタジアム（横浜市）の松本山雅FC—横浜F・マリノス戦の前座として、知的障害者サッカーの県代表チームがマリノス傘下の知的障害者チームと対戦することが10日までに決まった。マリノス側の呼び掛けに、8年前から障害者向けサッカー教室を開いている県障がい者福祉センター「サンアップル」が応じ、知的障害、発達障害

がある人たち16人による初の県代表チームを結成した。

2020年東京パラリンピックなどを見据え、日本サッカー協会（JFA）と障害者サッカーの各団体が連携して新組織をつくり、競技を盛り上げようとの動きがある。長野県内では障害者サッカーがまだ普及していないため、支援者らは今回の対戦を活動拡大のきっかけにと期待している。

マリノス傘下には、Jリーグクラブ唯一の障害者チーム「フトゥーロ」がある。2004年発足で約90人が所属。マリノスの指導者や地元の支援団体が強化と普及を担い、小山良隆コーチ（46）は「全てのJリーグチームに障害者チームができたなら願って活動している」と言う。年1回はマリノスのホームゲームで前座試合を行っている。

今年は最終の山雅戦で計画。打診されたサンアップル側は、10月に千曲市で開いた障害児・者のサッカー大会参加者に呼び掛け、10～30代の男性計16人が手を上げた。8日に北佐久郡御代田町で行った練習には15人が参加。パスやシュートを練習し、同町御代田中学校サッカー部と練習試合もした。

上田市の県上田養護学校高等部1年の望月慎平君（16）は「大きなピッチはめったに立つ機会がない。勝つ気でいきたい」。山雅サポーターでもある安曇野市の野々宮瑛さん（22）は、山雅の選手と同じピッチでプレーできることについて「楽しみたい」と話していた。

JFAは今年4月、日本知的障がい者サッカー連盟や日本ブラインドサッカー協会など七つの障害者サッカー団体と、来年4月に各団体を統括する組織を創設することで合意。JFA広報担当者は「普及や指導者養成など具体的な活動を進める」とする。

県サッカー協会も今回の県代表チームに国体用のユニホームを提供したり、監督、コー

チとして協会員が同行したりして協力。原利昭事務局長（４６）は「県内で活動が広がるきっかけにしたい」と期待している。

県代表チームの試合は２２日午前１１時４５分から１５分ハーフで行う。

岩手）全国障害者スポーツ大会 北上の４選手が金メダル 朝日新聞 2015年11月11日
金メダルを獲得した阿部、菊池、八重樫、国谷の４選手（左から）＝北上市役所



和歌山県で１０月に開かれた全国障害者スポーツ大会に、北上市から出場した４選手が金メダルを獲得した。４選手は６日、北上市役所を訪れて及川義明副市長に報告し、来年のいわて大会に向け、さらなる活躍を誓った。

陸上の菊池美香（３５）、水泳の阿部仁（４８）、フライングディスクの国谷朋哲（１７）、八重樫敦（３１）の４選手。菊池選手は１５００メートルで７分４秒４５、阿部選手は２５メートル自由形で１５秒７７、国谷選手は飛距離で５６メートル０１センチを記録、八重樫選手はコントロールの正確さを競う種目で正確に投げた。

及川副市長は「来年の大会に大きな力になる」とたたえた。４選手は「仲間の励みになり、さらに頑張りたい」と話した。

18年福井国体、5競技を9月に早期開催 全日程が事実上決定

中日新聞 2015年11月11日

二〇一八年の福井国体（九月二十九日～十月九日）で行われる競技の日程が、事実上決まった。多くの開催市町で期間の前後半に競技を振り分けた。三十七競技ある正式競技のうち五競技を九月中に早期開催する。十二月十日に開かれる日体協の国体委員会で正式に決定される。

福井市の県自治会館で十日にあった第七十三回国民体育大会・第十八回全国障害者スポーツ大会（福井しあわせ元気国体・大会）実行委員会の第一回常任委員会で承認された。

競技日程は（１）宿泊施設の稼働状況（２）運営スタッフの配置（３）会場の状況（４）国内競技団体の日程の四点を考慮した。前後半に競技を振り分けたのは、運営に当たる各市町の負担を減らすため。今年七月に開催が正式決定した後、各市町が競技団体と相談して日程案を提出。県が調整した。

常任委員会では委員長を務める西川一誠知事が「国体と障害者スポーツ大会の成功に向けて、県民や企業の皆さんの協賛が不可欠」と協力を要請した。

福井国体は正式競技のほか、特別競技一競技、公開競技四競技を行う。公開競技も早期開催となる。インディアカ、シルバーソフトバレーボールなどのデモンストラーションスポーツの日程は開催前年の二〇一七年度中に決定する。

◆選手団5500人参加 障害者スポーツ大会の概要発表

福井国体の後に開かれる全国障害者スポーツ大会（福井しあわせ元気大会＝十月十三～十五日）の実行委員会は十日、大会概要を発表した。過去の大会データを基にした参加人数は選手団が五千五百人、審判員と競技補助員が二千七百人、運営ボランティアが三千五百人になる。

日程も示された。競技は正式競技が十三競技、オープン競技が三競技。正式競技は三日間で行われ、初日に県営陸上競技場（福井市福町）で総合開会式、三日目に同競技場で総合閉会式が開かれる。オープン競技の日程は今後、決めるという。（藤共生）

大分)「司法ソーシャル」に本腰 弁護士会・法テラス 朝日新聞 2015年11月11日



法テラス大分が開いた協議会に集まった福祉関係者ら＝大分市府内町1丁目

弁護士が福祉や行政などの関係者と連携する「司法ソーシャルワーク」に、法テラス大分と県弁護士会が乗り出している。自分から支援を求めるのが難しい高齢者や障害者らのもとに弁護士が出向き、サポートする。

相談者は通常、弁護士事務所や法テラスに足を運んで仕事を依頼する。だが、法テラス大分によると、自身が抱える法的問題に気づけない認知症や病気の高齢者らが一定数いるとみられている。

司法ソーシャルワークは、高齢者らと日常的に接している福祉や行政の関係者らの協力を得て、弁護士への橋渡しをしてもらい、主に弁護士側から相談者のもとに出向く。法的な支援が必要と思われる相談者を掘り起こす取り組みだ。

民間任せの危うさ露呈 高齢者住宅「サ高住」突然の廃業 中日新聞 2015年11月11日



新しい施設の職員たちと、高齢者の荷物を運ぶ斎藤則子さん(左)ら＝三重県四日市市で

三重県四日市市のサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)が十月末で閉鎖され、入居者二十二人全員が退去を迫られた。運営会社の突然の廃業に伴うもので、ケアマネジャーたちの奔走で介護施設など少なくとも六カ所に転居が決まり、路頭に迷う事態は避けられた。高齢者が安心して暮らし続けられる住まいとして全国で急増するサ高住だが、業者任せ

の危うい実態があらためて明らかになった。

「十一月一日以降は、業務の終了に伴いサービスを利用いただけない状態となります」。サ高住の入居者に「廃業のお知らせ」と題する紙が配られたのは十月一日。わずか一カ月の期限だった。

入居者の介護サービス計画を立てていた居宅介護支援事業所「中部介護支援センター」(同市)のケアマネジャー斎藤則子さん(58)によると、入居者は認知症の人がほとんど。頼れる家族がいない上、ついのすみかのつもりで入居し、他に行き場所がない人が多い。二〇一四年秋の開業から暮らしていた入居者たちは、突然の通告に戸惑った。

当初は、別の業者が運営を引き継ぐことで住み続けられることを期待したもの、後継業者は現れなかった。「このままでは高齢者の行き場がなくなってしまう」。斎藤さんらは四日市市にも緊急事態を通報するとともに、知り合いの施設に声を掛けて、緊急に受け入れてもらうことにした。

認知症のため自分で手続きができなかったり、生活保護受給により家賃などの条件が折り合わない人がいたりして、転居先探しは難航。全員が転居を済ませたのは期限ぎりぎりの十月三十日だった。

一月に入居した五十代の女性は「気が合って友達となった入居者と別れるのがつらかった。良いところに入れたと思っていたのに、まさかこんな結果になるとは…」と言葉を詰まらせた。斎藤さんは「スムーズに転居先が見つかるように各施設に声を掛けるなど、行政にもできることがあったはずなのに、何もしてくれなかった」と憤る。

施設閉鎖の原因は、運営会社の社内事情だった。運営会社の関係者は「この夏に経営者が代わり、職員が退職するなど現場が混乱したため、事業継続が困難になった」と話す。

サ高住について定めた「高齢者住まい法」では、運業者が廃業などをした場合、都道府県が他の適当な賃貸住宅や有料老人ホームに円滑に入居できるよう必要な助言や援助をするように努めるとしている。三重県住宅課は「事業主に、入居者の居住の確保に努力するよう指導した」と語る。四日市市介護・高齢福祉課は「結果的にスムーズに対応できなかった」と認める。もし転居先が見つからなかった場合は、市の権限で特別養護老人ホームなどに入所させることも可能だという。

日本福祉大の児玉善郎教授（福祉住環境）は「サ高住は、民間任せで参入規制が甘い。破綻したときの罰則もなく経営の安定を担保する仕組みになっていない。今後も、こうした事例が出てくることは十分考えられる」と指摘する。（稲田雅文）

＜サービス付き高齢者向け住宅＞バリアフリーの建物で、2011年に制度化された。入居時の負担が軽く、常駐スタッフによる見守りや生活相談サービスなどがある。介護サービスは、入居者が介護保険を使って外部の業者に依頼する。国の建設費補助があり、参入も比較的容易なため急増し、15年10月末で18万7000戸に達した。運営主体（14年3月末時点）は株式会社56・1%、医療法人14・3%、有限会社13・3%、社会福祉法人8・5%。

子供の安全を守る児相で保護児童の胸ぐらつかみ「反省しろ」 職員処分 和歌山

産経新聞 2015年11月11日

和歌山県子ども・女性・障害者相談センター（児童相談所）＝和歌山市＝で一時保護児童を指導する主査が、保護中の小学生2人の胸ぐらをつかむ行為をしていたことが11日、分かった。2人にけがはなかった。県は7月、暴行に当たるとして訓告処分にした。

取材によると、主査は5月、運動中に指導に従わなかった小学5年女児（10）に「反省しろ」と言って胸ぐらをつかんだ。6月には教室で他の児童の席に勝手に座り、注意を受けた小学6年男児（11）がその後も注意を真剣に聞かなかったとして胸ぐらをつかんだ。男児への行為を他の職員が目撃し発覚、主査への聞き取りで女児の件も明らかに。主査は「認識が甘かった」と話したという。センターは「子供の安全や安心を守る機関で、このような行為が起きたことを重く受け止め、職員の指導を徹底する」としている。

障害児の扶養手当、支給遅れる 91人分1600万円 島根

産経新聞 2015年11月10日

島根県は10日、障害のある子どもを養育する父母らへの特別児童扶養手当を、91人に對し11月の支給日に払えなくなると発表した。総額は約1600万円で、1カ月遅れの12月11日に支給する。手続きの遅れが原因で県は既に、該当者に連絡し謝罪した。県によると、手当は障害の程度に応じ、月額約3万4千～5万1千円が年に3回、4カ月分まとめて払われる。支給を受けるには年に1度、8、9月に所得状況を市町村に届ける必要があるが、書類に不備があった91人について確認作業が遅れたのが原因。担当は1人で、今年初めて処理を受け持った。緊急にお金が必要の場合は、県の無利子融資を利用してもらう。

国の借金、1054兆円＝1人当たり830万円－9月末 時事通信 2025年11月10日

財務省は10日、国債と借入金などの残高を合計した「国の借金」が9月末時点で1054兆4243億円になったと発表した。過去最大を更新した6月末に比べ、2兆7991億円減少した。減少は2014年12月末以来。税収増を受け、一時的な資金繰りを賄う政府短期証券の発行を見送ったのが要因。10月1日時点の人口推計（概算値1億2689万人）で割ると、国民1人当たり約830万円の借金を背負う計算になる。

全体の75%を占める普通国債は、7兆1583億円増の791兆2666億円。短期

と中期の国債が減る一方、長期国債は増加した。政府短期証券は106兆0283億円と、9兆0999億円減少した。年金や医療費など拡大する社会保障関係の財源を借金に依存する構図は基本的に変わらず、国の借金は15年度末に1167兆1000億円まで膨らむ見通しだ。

「ロボットスーツHAL」の主な仕組み



ロボスーツHAL、医療機器として国内初承認へ

竹野内崇宏 朝日新聞 2015年11月10日

体に着けて歩行能力を高める装置「ロボットスーツHAL（ハル）」について、厚生労働省の専門家会議は10日、全身の筋力が低下した難病患者のための医療機器として承認することを了承した。月内にも承認され、その後、保険適用を検討する。

装着型のロボットが医療機器に承認されるのは日本では初めて。歩行を補助する福祉用具のHALよりも性能が高く、承認後は病院での歩行機能改善の治療に使える。

装置は、筋肉を動かそうとする際に生じる電気信号を、ももやひざに貼り付けたセンサーが読み取り、内蔵コンピュータで関節部のモーターを動かして歩行を助ける。「歩けた」という感覚を脳に送り返すことで歩く機能を取り戻せるという。

介護の難題、尿の臭いを解決する

高齢になったり介護が必要になったりすると、尿漏れやトイレでの尿の飛び散りが多くなり、どうしても臭いがします。介護を受ける人も介護する人も、気になることですが、解決しにくいのが現状です。

首都圏に住む女性（53）は2年ほど前、病気の父（78）と、父を介護している母（78）が住む家の臭いが気になるようになった。そのころから、父は体が思うように動かず寝ている時間が長くなり、トイレでの尿の飛び散りや漏れが増えていた。

女性は近くに住んで実家に通うが「外から家に入ると臭いがわかりました。母は臭いに慣れて、鈍くなっていたようです」。母は見えにくいためか、トイレの飛び散りが拭ききれていないこともあった。

こうした臭いの悩みは在宅介護の家族の多くが持つ。家事代行業「ベアーズ」専務の高橋ゆきさんは、「介護は臭いの問題から始まる」と言う。高橋さん自身も母を介護しているが、掃除のプロでも、当初は臭いに戸惑った。薬を飲んだり点滴をしたりしていると特に強い臭いになりがちだ。通常の掃除や洗

朝日新聞 2015年11月7日

介護と臭い

濯では防げないようだ。高橋さんに臭いを防ぐコツを聞いた。

換気をまめにする。トイレで尿が飛び散った床や壁はこまめに掃除。寝具や衣類も早めに洗濯する——のが基本。特にトイレは工夫が必要で、可能なら使うたびにちょこっとでいいので掃除する。洋式の台と床の境目はたまりやすいので丁寧に。水分のあるシートやぞうきんで拭いた後、湿り気を残さない。マットやスリッパも臭いが付きやすいのでこまめに洗濯する。

「こまめに」「早めに」というのは、時間がたつと臭いが強くなり、色もついて不快感が増してしまうからという。花王（本社・東京）によると、尿は、時間がたつと菌がつくる分解酵素が、尿臭が発生する前の物質を分解し臭いが発生する。

部屋にこもったり洗濯しても落ちなかったりする尿臭用に、専門の消臭剤や洗剤もある。

花王は、臭い発生の原因になる分解酵素の働きを抑える成分が入った洗剤や消臭剤を製造、販売している。ピジョン（本社・東京）は、便などに含まれる臭い成分を良い香りに変化させる消臭スプレーや、部屋にかけておくと空気の尿臭などを減らす薄いシートなどを製造、販売している。

介護の臭いは気持ちの負担につながるが、高橋さんは「臭い予防の掃除や洗濯を習慣にして、明るく穏やかに暮らせるようにできれば」。冒頭の女性は、臭いに気づいたとき、母にどう伝えるか悩んだが、親戚などもよく出入りするため思い切って言い、以降、母と一緒に対処している。女性は「どういう方法で周囲の人に伝えるかは、それぞれのケースで違うと思う。介護を支援するケアマネジャーに相談するのもいい」（神田明美）

■インフォメーション

介護の臭いを消す専用商品は、花王の「消臭ストロング」シリーズの消臭剤や洗剤、ピジョンの消臭剤「香り革命」「お部屋の消臭シート」などがある。それぞれの会社のホームページで、商品について説明している。ドラッグストアなどで、介護用品売り場に置いていることが多い。通信販売でも入手できる。

「五郎丸」名乗る匿名寄付 文具やDVD、「タイガーマスク現象」に続くか 横浜

産経新聞 2015年11月11日

横浜市緑区役所に届いた文具やDVD＝9日（同市提供）

横浜市緑区は10日、女兒向けアニメ「プリキュア」シリーズのキャラクター星空みゆきと、ラグビー日本代表の五郎丸歩選手の名前が差出人に併記された匿名の寄付があったと発表した。文房具やアニメのDVDが郵送された。区は社会福祉協議会を通じて配布先を検討している。

区は五郎丸選手本人に確認していないが、送り主の住所が架空のため、匿名の寄付と判断した。

区によると、寄付は9日午前11時ごろ、区役所に届いた。袋の中に、色鉛筆6セットや塗り絵のできるノート6冊、「シンデレラ」などのアニメDVD2枚が入っていた。消印は神奈川県内だった。

同封の便箋には「子どもたちへのプレゼントです。世界中の子どもたちが笑顔で迎えられるクリスマスが来ますように」と書かれていた。区は「五郎丸選手はヒーローなので（数年前に全国で寄付が相次いだ）タイガーマスク現象のように名乗る人が出たのだろう」と話している。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行